

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ほほえみごっこ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	関市稲口833番地1
記入者名 (管理者)	吉田 仁
記入日	平成 20年 6月 1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の意思及び人格を尊重し、家庭的な環境と地域住民の交流のもと住み慣れた環境での生活を継続できることを目指し、自立した日常生活を営むことが出来るよう援助及び機能訓練を行ないます。		
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング等で時々確認し、理念に近づけるよう日々取り組んでいる。		
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には契約時に理念の説明をし、地域は運営推進会議等で伝えている。		家族や地域人々全体に浸透していくように活動していきたい。
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	建物が民家から離れており、隣近所の人と気軽に声が掛けられるような環境にないが、法人内の他事業所の職員や利用者に気軽に立ち寄ってもらえるよう声かけしている。		地域に人たちが気軽に立ち寄ってもらえるような環境づくりをしていきたい。
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			地域での祭りの参加や公民館等の清掃活動を予定している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる			地域の方に回覧板等で情報提供し、季節のお菓子作りの参加や高齢者向けの料理教室、介護相談等を受け入れる体制作りを検討している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング等で議題とし、職員それぞれの外部評価に関する意義・意味の理解を求め改善できる事項から取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活状況や行事内容の報告や新たな取り組みについての提案をし運営推進会議の意見を取り入れながら、会議後ミーティング等で会議の内容等を伝達している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営について分からない事や疑問に感じること、社会資源等の活用についての相談を電話連絡等で行なっている。月に1回図書館の利用もしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	講習会の資料をいつでも読めるように設置し、それぞれの職員が時間のあるときに読んで理解するようにはしている。		勉強会等で学ぶ機会を作り理解を深めていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内には身体拘束廃止委員会が設置されており、ミーティング等を通して虐待防止、身体拘束の防止に心がけている。		学習の機会があれば積極的に参加できるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に心配される内容で、入居して体調の変化や環境の変化等により生活が困難になった場合等の不安事項を最初に十分な話し合いを持ち解約時に不安にならないようにしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員の受け入れやご要望・ご意見書をホーム内に設置し、運営に反映できるようにしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年に4回家族に向けたお便りを発行し、暮らしぶりや健康状態、連絡事項の報告をしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>電話や面会時にはご要望・ご意見を聞いたり、ホームの玄関口にご要望・ご意見書を設置し、運営に反映している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者の出勤時やミーティング帳を活用し意見を出してもらい、ミーティングで内容を公表し、他職員の意見も聞きながら運営に反映している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>外出行事やイベント行事の際には職員を多く配置し、入居者の支障をきたさないような勤務体制作りをしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内での人事異動や家庭の事情によつての異動や離職はやむをえないが、時間のあるときは顔を出してもらったり異動した部署に顔を出しに行ったりしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルマップ表に基づき、3ヵ月毎に評価し見直しを行なっている。又、法人内に学習委員会を設置し各事業所毎に学習担当者を決めている。		法人内の他事業所の勉強会にも積極的に参加していきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	立ち上げ時にグループホームうららを体験実習。		設立1年未満なので今後他施設のグループホームと共同行事等を行なっていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会を通じてボーリング大会、慰安旅行等を企画し、職員間のコミュニケーションを図っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課表による自己申告に基づき毎年個人面談を行なっている。又、個人目標管理表職務能力定義書により目標及び職能定義を明確にしている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	センター方式の書式を利用して家族に入居前の生活状況や経歴を記入してもらい、それをもとに暫定ケアプランを作成し、徐々に生活していく中でニーズを把握し本人との信頼関係作りをしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	NO. 23と同様にセンター方式の書式の記入と管理者と担当職員が中心となり、家族とのコミュニケーションを図りながら信頼関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの段階で本人と家族の要望を聞きながら、必要に応じて主治医や歯科医師等に相談し本人にとって住みやすい環境を作るように努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人、家族に見学をしてもらい入居時には居室の設えを出来るだけ入居前の環境に近くなるように使い慣れたタンスや食器、布団、アルバム等を持ってきてもらったり、入居前の生活リズムを出来るだけ崩さないように安心して暮らせるように家族等と相談している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや畑作りなどを通して入居者の経歴を把握しながら昔の話をしながら職員が知らないことを教えてもらいながら支援している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常生活での身体状況の変化や行動の変化が見られるときは家族に電話連絡をし、その場で相談しながら方向性を決めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の負担にならない程度に出来るだけ面会に来ていただいたり、時々外出、外泊をして気分転換を図ってもらうようにしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通して面会に来ていただいたり、同法人のデイサービスやショートステイ等をご利用してみえた方については時々散歩に行き職員や利用者との交流を図っている。		馴染みの場所については、全体の外出行事はやっているが、個々の馴染みの場所への外出が出来ていないので今後検討していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係についてはミーティング等で職員間で情報の共有をはかり、孤立しないようには努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居の際には、何か相談事があればいつでも連絡してもらおうようには口頭で伝えてはいるが、連絡を取り合うことはしていない。		今後は関係を断ち切らないような仕組みを作っていきたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	最初は面接時や契約時に本人や家族に希望や意向を伺い、出来る限り尊重し、困難な場合は将来的に可能となるよう検討していく。		事業所の都合により本人本位にならない部分もあるが、出来るだけ本人本位に近づけるよう努めていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時に自宅等の生活していた場所を確認させたり、センター方式の書式を利用して家族に入居前の生活状況や経歴を記入してもらい、入居時には馴染みのあるものを持参してもらい生活環境をあまり変えないようには努めている。		本人の状況や身体状況の変化によっては昔の生活と変わってしまった方も見えるが、本人や家族の意向を聞きながら馴染みの暮らしがしていけるよう支援していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各入居者に担当者を設け、一日の暮らしは個人記録に記入し、入居者の状況により、看護師や主治医等に相談しながら、総合的に把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを職員間で行い、そこで上がった意見を内容によって本人、家族、必要な関係者と相談した上で介護計画にしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	生活の中で状況の変化によりすぐに見直しが必要な方については、毎月のケアカンファレンスやミーティング帳にて介護計画の変更をし、情報を職員間で共有できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入やバイタル測定、必要に応じて食事摂取量のチェックを毎日行い、月1回体重測定を行ってそれをもとにミーティング等で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	総合福祉施設の特徴を活かして、その人の状況に応じていろんな事業所に顔が出せる体制が作ってある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の小学校との交流や同法人内に情緒障害児短期治療施設があるので、その児童との交流を徐々に深めている。折り紙ボランティアや市立図書館も有効活用している。		必要に応じていろんな機関と関わり合いを持っていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同法人内の居宅支援事業所のケアマネジャーやサービス事業者の担当者とは必要に応じて話し合いをし、適切なサービスが受けられるように支援をしている。		法人以外の事業所との交流が出来ていないので今後は交流できるように努めていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて市高齢福祉課に相談し、アドバイスを頂きながら入居者の支援につなげている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に病院は本人や家族等の希望で決めてもらっており、受診は家族に依頼し、状況に応じて往診を依頼したり職員で受診の支援をして関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医に認知症の症状について職員が直接相談をかけた、家族を通じて相談してもらっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同法人内の看護職員にほぼ毎日経過観察に来ていただき、日常の健康管理の相談をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際には管理者が中心となり、家族や病院と連絡・連携を取りながら情報交換をしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合の終末期のあり方についてグループホームの方針を書面も添えて家族等に説明し、ホームでの生活が困難な兆しが見え始めた時点で家族や主治医と相談し方向性を共有している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所としての対応が難しくなった方については、その方にあった生活の場を家族や必要な関係機関と相談し検討や準備をしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現段階で他の居所へ移動された方は見えないが、今後そういう方が出てこられた際は、十分な話し合いを持ち本人が不安にならないような支援ができるよう努めていきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報の取り扱いについては、勉強会・ミーティング等を通じて各職員に情報の漏洩がないように注意している。言葉かけにあたってそれぞれのプライドを傷つけないように配慮できるよう心がけている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者の誕生日にはそれぞれ好きな食べ物をリクエストしてもらいメニューを決めてもらっている。入浴は、毎日入れる体制をとり本人の希望に応じて入浴してもらっている。</p>	<p>食事については、毎日の献立については利用者主体にはなっていないので、将来的にはメニューの決定してもらえるようにしていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>出来る限り本人の意思を聞きながら、やれそうなことを選択してもらったり希望を聞きながら生活してもらっている。外へ散歩に行きたい人にも日中であればいつでも散歩に出掛けられるような体制をとっている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>季節によって家族に衣替えをしてもらったり外出用の衣類も準備してもらいおしゃれが出来るようにしている。女性については普段お化粧品をされる方はやってもらい、しない方は時々化粧品療法を取り入れて化粧品をもらっている。理美容については、馴染みの美容院がある方は家族に連れて行ってもらう、無い方は訪問してもらっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>季節の食材を中心に献立を作り、食材についての話題づくりをしながら、入居者と職員と一緒に準備し、食事を食べ片付けもやってもらっている。</p>	<p>食事についてはどうしても女性の入居者が中心となってしまうが、時々男性にも言葉かけし無理のないように手伝ってもらっている。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>週に2回買い物に出掛け一緒に行かれた方には、自分の好きなお菓子を買ってもらったり、施設内で食料品販売の日があるので希望を聞いて買い物に行ってもらっている。お酒も本人が望む方については家族に持参していただき飲んでもらっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来る限りオムツの使用は避け、失禁パンツ等も使用しながら言葉掛けをしながら、失禁防止をしている。ポータブルトイレを使用される方については出来るだけ臭いが出ないように日中は排泄が確認されたらすぐ処理するようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴したい方は毎日入浴してもらっている。最低でも週2回は入浴してもらっている。		時間帯については基本的に午後から入りたいとの希望もあり夕方までの時間帯で行なっている。入居者の状態によって夜間入浴も行なっている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的にはそれぞれの休みたい時間に休んでもらうようにしているが、昼夜逆転にならないようには支援している。夜間眠れない人には牛乳を提供している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出行事を企画したり、毎日レクリエーションを行い本人の希望によって参加してもらっている。畑作りをしており、天気の良い日は毎日水やりをして成長を楽しんでもらったり、入居者によって新聞を取りに行ってもらえるような役割を持っていたい。		入居者の身体状況によって外出行事に参加が困難な人やいるんな事に意欲が無い方もありその方たちにも張り合いを持っていただけるよう支援していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については事業所管理はしておらず、必要に応じて時々家族に面会に来ていただき、少しずつお小遣いを渡してもらい本人管理で買い物をしてもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に散歩に行きたい希望がある場合はいつでも行けるようにしている。		事業所近辺の散歩はいつでも対応できるようにしているが、事業所から離れた場所に行きたいと言われる方についてはすぐに対応が出来ないので今後検討していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月1回は外出行事を企画し普段行けない場所へ全体として出かけてはいるが、個別での外出希望については、事業所としては対応ができておらず家族に相談をし連れて行ってもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所として特に制限は設けておらず、本人から希望があれば電話をしてもらったり、耳が遠い人は職員が間に入って支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	基本的には面会時間を定めてはあるが、可能な限り訪問していただいたときに面会してもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことへの理解はしているが、事業所として身体拘束についての現状として必要がないこともあり職員全体として勉強する機会がまだ出ていない。		法人内に身体拘束廃止委員会が設置されており、今後の課題として勉強する機会を作っていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵については本人の意思によりプライバシーを保つための鍵の設備にしてある。玄関については、職員体制により日中は開錠し玄関を開けた際に音になるセンサーを設置し、出入りの確認をしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は出来るだけホールに過ごしてもらうようにし、居室で過ごされて見える方は時々確認に行っている。夜間は1時間ごとに巡回するようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物や注意の必要な薬品類の保管については目の届かない所定の場所へ保管しているが鍵まではつけていない。刃物を使用してもらう場合は職員が目の届く場所で使用してもらっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ミーティング等で話し合いをし、事故防止につなげている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時は管理者は24時間オンコール体制をとっており看護職員、家族、主治医、協力医療機関と連携をとり対応しているが、応急手当や初期対応の訓練は定期的には行っていない。		看護師とも相談しながら定期的に行えるようにしていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと施設合同で年2回の防災訓練を実施している。		運営推進会議の中でも取り上げ地域の方の協力が得られるように努めていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日常生活の中で起こりうるリスクが想定される場合は、家族連絡し抑圧感のない暮らしができるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタル測定をし体調の変化がないかを確認し、異変時は看護職員と相談し対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に処方された薬剤情報を綴じ、内容を理解するよう努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食時に乳製品や果物を摂り入れ、午前中に体操や散歩をして自然排便が出来るようにしている。		排便の状態によっては水分を多めに摂ってもらうようにしている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	基本的には毎食後口腔ケアをしてもらっている。		入居者の状況に応じて歯科の往診を依頼し口腔ケアを定期的に行ってもらったり、職員が援助している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量を把握して盛り付けし、料理本を参考にしながら、カロリーや栄養バランスを考え献立を作成している。食欲がない方については、食事水分チェック表に食事量、水分量をチェックしながら一日の摂取量をみて対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	季節的な感染症については時期が近くなる頃にミーティングや勉強会で予防法を確認して、書類をミーティング帳に綴り、予防接種が必要なものについては接種してもらっている。他の感染症については入居者の状況に応じて感染症の把握をしている。また来訪者にマスク着用を促す等、外部からの感染予防にも配慮している。		必要に応じて感染症の勉強会を開催し知識を高めていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品については日曜日以外は毎日配達してもらい新鮮なものを提供している。食中毒の予防について、まな板は毎日ハイター消毒し食器や調理器具については食器洗浄機にて乾燥消毒させている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の隣に畑を作り野菜や花を植えて家庭的な雰囲気作りをしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ共用空間は不快な音や光が入らないように配慮し、季節によって花を生けたり、廊下に外出したときや行事の様子を写真に撮り掲示し生活感を出している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人用のリクライニングチェアや掘りごたつを設置し、思い思いに過ごせるような居場所の空間を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族から馴染みの家具や使い慣れた物を持ってきていただき、居心地よく過ごしてもらえるようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気扇は回しているが、季節によって窓を開けたり空調を使用して居室については利用者の状況に応じて温度調節をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各箇所に手すりを取り付けたり、食堂に椅子は肘掛つきの椅子にすることにより立ち上がりやすいように自立支援を促している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来るだけ近くから見守りながら、混乱、失敗しそうなときは言葉掛けをするようにして自立を促している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物にテラスが作っており、洗濯を干したり、お茶を飲んだり、バーベキューをしたりして有効活用している。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開所して1年経っていない状況でまだまだ不十分なところや改善するところも多々ある中で、開所当初から続けていることとして朝食は個々の起きる時間を尊重し、好きな時間帯に朝食を摂って頂ける様にしている。食事については冷凍食品は極力使用せず新鮮な食材で提供し、おやつについては出来る限りは手作りのものを提供している。入居者の方にはできるだけストレスがたまらないように、徐々にではあるが外出機会を多くしている。